

## 九州ブロッククラブネットワークアクション 2019 開催報告

日 時： [1 日目] 令和元年 11 月 9 日（土） 13：00 ～ 17：00

[2 日目] 令和元年 11 月 10 日（日） 9：00 ～ 12：00

会 場：ホテル ニューウェルシティ宮崎

内 容：テーマ「わたしたちのまちの未来と総合型地域スポーツクラブ」

### [1 日目]

1. 共通プログラム「総合型クラブ登録・認証制度の創設に向けた情報共有」

2. オリジナルプログラムⅠ-①

講演「これからの総合型が地域で必要とされるためには」～学校と地域との融合～

3. オリジナルプログラムⅠ-②

パネルディスカッション「総合型クラブと学校との連携・融合」

### [2 日目]

1. オリジナルプログラムⅡ

テーマ別研修「地域に必要とされるクラブをめざして」

①学校との連携 ②子どもたちのスポーツ活動

③クラブの組織運営 ④高齢社会に向けて

2. 日本スポーツ協会からの情報提供

参加者：169 名

### 【概要】

九州ブロックでは、地域の課題解決に資するために「まちや学校との協力・連携」に焦点をあて、「わたしたちのまちの未来と総合型地域スポーツクラブ」をテーマに掲げ、1 日目は、総合型クラブと学校運動部活動の連携に関する講演・パネルディスカッションを、2 日目はテーマ別の研修を行いました。

2 日間の研修を通じ、参加者たちが総合型クラブと地域について考えるとともに、クラブ間の交流を深めました。

### 【内容】

#### [1 日目]

#### 共通プログラム「総合型クラブ登録・認証制度の創設に向けた情報共有」

第 2 期スポーツ基本計画で示されている総合型クラブの登録・認証等の制度整備について、2021 年度からの制度施行に向けて、総合型クラブ育成に携わる関係者間における制度に関する情報共有を図り、制度の円滑な導入を目指すために、「総合型クラブ登録・認証制度の創設に向けた情報共有」をテーマに共通プログラムを実施しました。

今回は、日本スポーツ協会が総合型地域スポーツクラブ全国協議会(SC 全国ネットワーク)を基盤として策定した登録・認証制度の原案に基づき、SC 全国ネットワーク斎藤常任幹事から制度創設の経緯・意義について、日本スポーツ協会事務局から制度の具体的な内容について説明を行った後、質疑応答を行いました。

## オリジナルプログラムⅠ－①

### 講演「これからの総合型が地域で必要とされるためには」～学校と地域との融合～

総合型クラブと学校運動部活動に関して、先進的な取組を実施している新潟県の NPO 法人希楽々<sup>きらら</sup>の渡邊優子理事長を講師に迎え、希楽々におけるアフタースクールや中学校運動部活動等の学校との協働・融合事例における、実施までの取組・実施内容・今後の構想について講演いただきました。

8校を対象に放課後の居場所づくり等を目的として実施しているアフタースクールは、文部科学省の委託事業受託や、文部科学省委託事業終了後の村上市の委託事業の実施により、学校との信頼関係を構築し、学校との融合的な関係を築いた事例を紹介いただきました。

また、学校運動部活動に関しては、平成 24 年度から平成 29 年度までに取り組んだ「新しいカタチの部活動」に関する取組や、平成 30 年度と今年度実施しているスポーツ庁「部活動改革プラン」に関する取組を紹介いただくとともに、各クラブにおいて新しい取組を提案する際のコツについてもお話いただきました。



## オリジナルプログラムⅠ－②

### パネルディスカッション：「総合型クラブと学校との連携・融合」

パネリストに、NPO 法人希楽々の渡邊 優子氏、NPO 法人 N スポーツクラブの森 慎一郎氏、大分大学の谷口 勇一氏、串間市立串間中学校の尾崎 城夫氏の 4 名を迎え、九州共立大学の内田 満氏によるコーディネートのもと、学校運動部活動に焦点を当てたパネルディスカッションを開催しました。

初めに、パネリストからそれぞれの学校運動部活動に関する取組を、クラブ・研究者・中学校教諭という立場から情報提供いただいた後、総合型クラブと学校とが連携・融合するための課題や現状についてディスカッションを行いました。

パネリストからは以下のような意見が出されました。

- 引き続き、総合型クラブ側から学校や行政へアプローチすることが重要。一方で、学校側も総合型クラブをもっと理解すべきである。
- 中学校に入った後も楽しくスポーツをしたいと思うような幼少期からの取組や中学校内での環境整備が重要ではないか。
- 学校の先生による部活動の指導に対し、安心や期待を感じる保護者もいる。学校に部活動を残し、それを地域の人々で支えるという考え方もあってもよいのではないか。
- 学校と連携・融合するためには、総合型クラブが自立する必要があるのではないか。また、学校との連携・融合を契機にクラブの財源を生み出すこともできるのではないか。



[2日目]

## オリジナルプログラムⅡ

### テーマ別研修：「地域に必要とされるクラブをめざして」

「学校との連携」、「子どもたちのスポーツ活動」、「クラブの組織運営」、「高齢社会に向けて」の4つのテーマの分科会を設け、参加者はそれぞれ2つの分科会を選択できる形としました。

分科会では、各発表者の事例発表の後、参加者からの質疑応答とし、各分科会において発表者及び参加者間の積極的な質疑応答や意見交換が行われました。

各分科会の概要は以下のとおりです。

#### 「学校との連携」

1日目から引き続き、NPO法人希楽々の渡邊優子理事長から学校との連携についての事例発表をいただきました。

発表では、特別支援学校との連携として、クラブが体育の授業指導の実施や、すでに実施しているアフタースクールを支援学校にて実施している事例が紹介されました。

質疑応答では、学校長との関係づくりの重要性を再認識したほか、指導者確保・保護者への説明・子どものニーズの把握等の課題について意見交換がなされました。



#### 「子どもたちのスポーツ活動」

NPO 法人都城ぼんちスポーツクラブの尾曲ともみクラブマネージャーからクラブで子どもを対象に実施している J リーグやプロ野球チームとの連携した教室や、親と子のスポーツ教室等について事例発表をいただきました。

発表後には、参加者を数名のグループに分け、子どもの指導に関するテーマ（子どもの運動能力、指導する際の注意点、会費の設定、実施種目数等）について活発な意見交換が行われました。



#### 「クラブの組織運営」

NPO 法人 SCC の太田敬介理事長から SCC における運営（クラブの商品の設定、提供するサービスの質の高め方、人材育成、財務、年間経営計画）について事例発表をいただきました。

質疑応答では、指導者・スタッフを確保する方法や、広報活動のコツ、参加者が少なくなった教室の実施判断等に関する質問が寄せられました。



## 「高齢社会に向けて」

けいめい記念病院健康支援センター日吉眞理子氏から、宮崎県国富町で実施している介護予防教室の取組について事例発表をいただきました。発表では、運動・食事は介護の一次予防となることから、元気な高齢者をターゲットとしてクラブ事業を展開することの提案や、行政からの委託事業を受けた際、事業終了後も継続する環境を整える重要性についても触れられました。

質疑応答では、国富町の取組における指導者育成や行政との調整方法等について質問が寄せられました。



## 【まとめ】

地域とクラブの連携・融合に関する2日間の研修を通じ、参加者それぞれが全体テーマである「わたしたちのまちの未来と総合型地域スポーツクラブ」を検討するための情報収集の機会となりました。

また、地域とクラブの連携・融合のためにも、今回の研修がクラブの持続可能な運営やプログラムの質の向上等について、それぞれが自らのクラブにて考えるきっかけになればと思います。

(九州ブロッククラブネットワークアクション実行委員長 齋藤 久允)



(開会式の様子)



(受付の様子)



(閉会式の様子)



(閉会式での次年度開催県の紹介)

※本ネットワークアクションは、東京2020応援プログラム(スポーツ・健康)として実施しました。